

山形県地域密着型サービス自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

※項目番号26 馴染みながらのサービス利用
 項目番号39 事業所の多機能性を活かした支援
 については、小規模多機能型居宅介護事業所のみ記入してください。

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム やまゆり
(ユニット名)	
所在地 (県・市町村名)	山形県 庄内町
記入者名 (管理者)	高橋 直樹
記入日	平成 20 年 12 月 25 日

山形県地域密着型サービス自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
I. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	<input type="checkbox"/> 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「のんびりゆったりそして楽しく!笑顔あふれ、誇りある生活を送るためお手伝いいたします。」の運営スローガンと、それに付随した基本方針を職員で作っています。	○	ニーズの変化に応じて、今後も柔軟に基本方針などの変更を行っていきたいと思います。
2	<input type="checkbox"/> 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	運営理念の基本方針は『安心・尊厳・地域社会・家族』の4項目に分かれており、職員会議において、この基本方針を外れる事がない様に、利用者の処遇、今後の活動等について話し合いを行っています。	○	現在、理念の共有を促進する為、職員の意識の持ち方、また、決められた日課に対する考え方について、指導、話し合いを重ねております。
3	<input type="checkbox"/> 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	当事業所の理念や基本方針を理解して頂く為、家族や地域の人々に、毎月のお手紙や運営推進会議、地域交流サロンにてお伝えしています。		
2. 地域との支えあい				
4	<input type="checkbox"/> 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	ホームの行事の際はもちろんの事、地域交流サロンや見守り隊、散歩や買い物等を通して、近隣の人達と日常のお付き合いが出来る様に努力しています。また、近所の方が、自主的に野菜などのおすそ分けや、草むしりのお手伝いなどに来て頂く事もあり田舎ならではのお付き合いができる様になってきていると感じています。		
5	<input type="checkbox"/> 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地元の行事や近隣の幼稚園・保育園・小中学校の行事にご招待いただいたり、逆に地域交流サロンやホームの行事に参加して頂いたり、積極的に地域の人々と交流する機会を設けています。	○	約1年ほど地域交流サロンを開催しているのですが、開始当初に比べると利用人数の減少が見られる為、今後どの様に薦めていくか見直しを行っています。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域交流サロンの開催や、暖かい時期の地域見守り隊活動などを行っています。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価に関しては、職員と一体になって取り組んでいます。仕事を進める上で外部評価を参考にし、改善するべきところは早期に改善するように努めています。	○	現在の課題として寄り添いの介護の有り方について会議で議論しております。生活の場としてのグループホームの良さを生かすために試行錯誤を行っている段階です。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議でご意見を頂戴するために、実際に取り組んでいる活動も見ているのですが、サービスの向上に直結するようなご意見に関してはなかなか難しい部分があると感じています。	○	地域との繋がりや家族との関わりといった議題がある程度解決すれば、その後の議題が見つからない傾向にあると感じております。運営推進会議の参加者の視点を替える必要もあり、頭を悩ませているところです。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	町とは連絡を取り合い、事業所のサービスに関する事のみではなく、認知症サポーター講座の講師としてこちらからも協力するなど、良い相互関係を構築させていただいております。	○	今後は事業所単独のみではなく、町内の地域密着型の全施設が町との連携を取れるような体制作りができる様であれば、なお良いかと思えます。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	地域福祉権利擁護事業については、現在4名の利用者が活用しており、社会福祉協議会と協力・連携し、支援を行っています。後見人制度に関しては、一部の利用者に関しては検討中ですが、本来であれば全ての利用者が必要かと思っています。地域に制度の浸透がない現状では、全ての利用者と言う事は難しいかと思われます。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止関連法については、外部研修に職員を派遣し、伝達講習を行ったり管理者がOJTを開催したりと、虐待の徹底防止に努めています。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居が決定した利用者に対しては、前もって契約書を閲覧できるようにお渡しし、契約前の不安や疑問に関して事業所に問い合わせさせていただくようにしています。また、契約時や、契約解除の際には、利用者やご家族様と十分な協議をしています。	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	月に1度、利用者会議を開催して意見などを頂いています。利用者より頂戴した意見は、翌月の職員会議にかけ、行事や運営に反映させるようにしています。	
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月の請求の際には、近況報告の手紙、預かり金の推移のご報告をしております。また、利用者の心境や体調の変化に応じ、家族へ電話などで報告・連絡・相談を行うようにしています。	○ 今後も継続して支援したいと思います。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の面会時に苦情やご意見等がないか問いかけ、意見や要望が出された場合は、職員会議の場において検討としています。また、玄関に苦情箱(目安箱)を設置しています。	○ 家族等からの意見、不満、苦情に関しては、殆ど出てこないのが現状です。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	できるだけ直接提案を聞く機会を設け、職員会議等で検討し、反映しています。	
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	ゆとりを持った職員の確保を行い、柔軟な対応ができる勤務体制となっています。勤務調整が必要な際には、職員間で話し合いながら調整をしております。	
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの職員による支援が受けられるよう配置異動を行い、職員が交代する場合でも、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	勤務の調整上、他の事業所での勤務をすることもありますが、事業所間での交流も行なっている為、人事異動を行っても見たことのある職員が対応するので影響は低いと思われま	○ 小規模施設の良さを生かして、利用者へのダメージが全くないに等しい関係作りをして行きたいと思っています。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
5. 人材の育成と支援				
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	外部研修に関しては、年間計画があり、研修を受ける機会を確保しております。また、研修会後は、必ず伝達講習を必ず行って頂くようにしています。	○	現在、3ヶ月での育成を目標とした新人研修制度と、個々に目標を立て、それを達成する為にみんなでサポートする目標管理制度の作成を行っております。
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	県のGH協会への加盟や、同業者との独自のネットワークがあり、研修・交流・相互訪問等の機会には恵まれています。しかし、サービスの質を向上させていく取り組みとはいえないと思っております。	○	サービスの質を向上に繋がるような、システム作りに関しては県のGH協会を除いてしまえば、ほとんどないに等しいと思っています。今後は管理者のみならず、職員も相互に行き来できる様な学びの体制を作るべきかと思っております。
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	忘年会等のストレス発散の場を設けたり、公休希望についても制限をすることなく、出来る限り必要などころは取れるようにしています。		
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	職員が保険者やGH協会より事業協力の依頼を受けることがあり、スキルアップの為に積極的に参加するように伝えていきます。また、各資格の取得に向けての支援や、資格取得後には評価を行い、待遇面においての配慮もしています。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	事前に生活状況の把握や、入居に際しての同意・希望を聞くようにしています。入居後の初期には、新しい環境に適応できるように支援を行っています。		
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	受付相談時や事前面接で入居に至るまでの状況を聞き、入居まで、理解していただけるように努めています。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けた際に当施設への入居が妥当か、在宅でのサービスが継続できないかなど、状況に応じて、担当ケアマネージャーも含めて、相談や調整を行うようにしています。		
26	【小規模多機能型居宅介護のみ】 ○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している			
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者には生活上での得意分野で力を発揮してもらい、職員はその結果に最大限の感謝をするようにしながら共同生活をしています。職員には一方的なサービスを提供しない様に指導しています。	○	利用者が主役となるべき場面で、職員がその仕事を取り上げてしまうことがまだ見られます。職員にはグループホームのコンセプトを徹底して伝えたいと思います。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	月に1度のお手紙で、家族へは利用者の身体や精神状況について包み隠さずに情報をお伝えしています。また、利用者の処遇に対して、家族より間接的、直接的にご協力いただくように働き掛けを行っています。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	利用者と家族との関係性を事前面接や入居後の接し方より理解し、面会時や行事の際など、より良好な関係が構築できるように勤めています。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	関係者の面会やふるさと訪問、電話の支援など、本人が望んでいるなじみの関係や環境を崩さないよう場面作りに努め、さりげなく支援をしています。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	職員が利用者の人間関係を理解し、孤立しないように配慮しています。利用者同士、円滑な人間関係を作れるように、職員が間に入ったり、食席の配置も人間関係を考慮しています。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	契約終了後も、家族から利用しているサービスに対して質問を頂くことがあり、職員が分かる事であれば対応を行っています。また、別の施設へ移った利用者へは、年賀状などの手紙を出しています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の思いや意向を把握するため、今年度からセンター方式のC-1-2シートを活用しています。また、態度や表情でどのような心境なのか確認し、TPOに併せて対応しています。	○	センター方式のC-1-2シートに関しては、活用し始めたばかりの為、まだ記入の未熟さが見られます。早くシートの特徴をつかめるようにして行きたいと思います。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前面接や、関係機関からの情報提供により、これまでの暮らしの把握を行っています。また、入居後に何気なく聞いた事も情報のひとつとして蓄積していくように努めています。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	担当者が中心となり、利用者の生活パターンや現在の状態などについてケース検討の際に全員で把握するようにしています。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入居時の介護計画に関しては、事前面接や事前情報を基に介護計画を作成しています。毎週の評価、ケース検討やサービス担当者会議の際に、必要時は家族・関係者よりご意見を頂戴し、介護計画の更新を行っています。	○	センター方式のC-1-2シートを用いて、本人が言ったこと、家族がいったことをそのまま介護計画に反映するように見直しを掛けました。分かりやすい内容を心掛けて行きたいと思います。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	期間に応じた見直しは勿論、状態変化があれば、再検討・見直しを行っています。現状に即した介護計画となるように、評価、ケース検討やサービス担当者会議、C-1-2シートを活用し、介護計画の見直しを心掛けています。	○	定期的な介護計画の作成については、職員がある程度認識しているのですが、変化後のプランについては、作成時期について遅れる場合がある様です。改善して行きたいと思います。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画に基づいて介護記録を行うようにしています。また、その記録は、介護計画に反映させています。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	【小規模多機能型居宅介護のみ】 ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている			
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、公民館、図書館、その他公共的施設などの協力を得ながら支援している	地元の学校関係へ理解と協力を働きかけ、行事への相互参加など協力を得ています。また、地域の民生委員やボランティアさんに、行事の際など参加して頂く事もあります。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や生活支援上の必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、介護保険外も含めて他のサービスを利用するための支援をしている	他の施設と利用者との話し合いの結果、GHの利用者が介護保険以外のサービスを利用しているケースも中にはあります。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	権利擁護や長期的なケアマネジメントに関して、地域包括支援センターと当ホームが協働することはありません。事業所のみでは解決困難な事例に関して、相談し、アドバイスをいただいています。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医による往診が月に一度あり、その際に相談しながら、日常の健康管理に努めています。また、他科受診をされている方に対しては、希望する医療機関や医師に受診できるようサポートしています。利用者の変化や健康面での心配がある場合その都度Drや家族と相談をし、受診を行っています。	○	現在も適切な医療を受けられるように支援していますが、今後は、管理者のみではなく医療関係担当の職員が中心になって更なる連携が図れるようにして行きたいと思っています。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	○	<p>本人や家族の意向を聞いた上で、ホームが対応できる限界までの支援について説明しています。医療連携体制加算を付けてなく、見取りの指針も作成していませんが、重度化や終末期に向けての方針や対応を相談しながら準備を整えていきたいと思っています。</p>
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	<p>○プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p> <p>全職員に個人情報保護に関する誓約書をとっており、プライバシーの確保を徹底するようにしています。</p>	○	全職員が個人情報保護法の理解に努め、秘密保持の徹底を図っています。今後も継続してOJTを開催し、更に理解を深めていく予定です。
51	<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p> <p>本人の希望を引き出すような声掛けを行うよう心掛け、日常的なちょっとした場面でも自分で決められるよう工夫している。</p>		
52	<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p> <p>決まった日課はありますが、できるだけ個別性のある支援を行うことができるように見守りを基本とし、時間がかかってもその人のペースを尊重して必要時のみ支援するようにしています。</p>	○	職員の余裕を作るためにも、日課通りでなくてもいいことを伝えています。各利用者のペースに合わせた、ゆったりとした日常生活を心掛けて行きたいと思っています。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p> <p>理美容の希望者には、いつも行っているお店へ送迎をしています。また、身だしなみの不十分なところは、職員がさりげなく直すようにしています。</p>		
54	<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p> <p>食事の下ごしらえ、配膳、片付けなど、利用者が主体となるように支援しています。また、家族は同じテーブルで一緒に食べるという考えから、みんなが揃って楽しい雰囲気をつくって食事を取るように心掛けています。</p>	○	食事を楽しむという意味で、外食、季節食、バイキングといった機会を提供していますが、利用者の意向を踏まえて増減について考え、より食事が楽しみになる環境を提供できるよう努めていきたいと思っています。
55	<p>○本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p> <p>現在、お酒の希望者や喫煙者はいませんが、飲食物の嗜好品については、様子をみながら楽しめるように支援しています。</p>		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄パターンを把握し、対応することで、失禁の回数が減少するように支援をしています。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週3回と基本的に入浴日は決めています。入浴を希望されない方には翌日に声を掛ける等して対応しています。一人でゆっくり入浴していただけるよう、入浴剤の使用や、プライバシーへの配慮にも気をつける様にしています。	○	曜日や昼夜を問わずに入浴出来る環境を作る事が出来ればさらに良いとは思いますが、現在の状況では厳しいと考えています。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	夜間不眠傾向の利用者には、適度の運動やお手伝いを勧め、一緒に行動するように心掛けています。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	アセスメントや生活歴を参考にしながら、得意なことやできることなど、一人ひとりの力を発揮できるよう、現在の状況に合わせた役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしています。	○	職員の判断で「できないだろうと」決めつけるのではなく、まずやってもらい、その後の状況をみてからどのような形の支援が理想か、考えて行動できる職員を育てていきたいと思っています。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族よりお金を預かり、ホームで管理していますが、買い物等のお金を使う際は、自分で支払いを行うことができる人は、その都度お渡しして、やり取りをしていただいています。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	毎日の食材の買出しには、利用者が気晴らしに同行していただいています。本人の希望に応じて、日常的に散歩や買い物、散髪など、積極的に行っていただいています。	○	身体的に厳しい方もいる為、今後も継続して外出行事を計画していきたいと思っています。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	本人が行きたい場所、個人的な外出を希望した際は、職員の勤務調整や必要時には家族の協力を得ています。職員が対応する際には、一定のルールの下に行っています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の希望に応じて、日常的に電話や手紙を出せるように支援しています。電話の際はプライバシーに配慮し、お部屋にコードレスフォンを持って行く事もあります。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	仕事帰りや都合のいい時間帯に、いつでも気軽に来ていただけるように伝えています。畳部屋や本人の居室など、希望される場所にお通しし、湯茶などの提供を行っています。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は全く行っていません。また、職員にも徹底して伝えています。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら鍵をかけないで安全に過ごせるような工夫に取り組んでいる	日中は出入口の施錠を解除しております。玄関にセンサーがあり、近づくと音が鳴るので、職員がキッチンにいても気付くようになっています。無断外出をしてしまう恐れのある方に関しては、カンファレンスを通じて検討しながら鍵を掛けないケアに取り組んでいます。	○	現在、無断外出をしてしまう恐れのある方はいませんが、今後に備えるようにして行きたいと思います。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	職員は、利用者の近くで記録や調理を行うように心がけています。また、夜間は起こさないように配慮しつつ、安全確認を行っています。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	個人の物品は、危険が無い限り個人で管理できるように配慮しています。また、夜間は包丁類、危険物は利用者の手の届かない場所に移して保管しています。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故が発生した際、報告記録を作成し、カンファレンスを開くなどの取り組みを行い、同じ事故を繰り返さない様に検討しています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	普通救命講習への参加や、応急手当のOJTの開催を行っています。緊急時には、マニュアルに沿っていつでも対応できるようにしています。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防災訓練を年2回実施し、利用者を確実に避難できるよう訓練を行っています。また、地元の消防団の方より、緊急時の協力を依頼しています。	○	地震、火災、水害、夜間対応に関しての、防災訓練を行いました。今後も計画的に訓練を積み重ねていきたいと思いをします。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	利用者の身体機能や、過去の転倒歴などから予測されるリスクに関して家族に説明し、対応を事前に伝えています。利用者の状態は毎月のお手紙で家族に報告しています。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	体調変化時には看護職員や関係医療機関に速やかに連絡を取って対応をしています。また、少しの変化でも記録に残しており、異変の発見につとめています。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬用紙を個人ファイルに綴じ、常に確認できるようにしています。内服薬に変更があった場合、業務日誌と、救急連絡表へ記載し、内容を把握出来るようにしています。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	便秘傾向の方を把握しており、水分摂取には気をつけています。また、レクや散歩、生活の中に体を動かす機会を個々に合わせて作っています。希望者には、乳製品の購入しています。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後に職員が口腔ケアを促しており、義歯の方は、消毒を夜間に行っています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	カロリーの過不足や栄養の偏りが起きないように、配食サービスのメニューを参考にさせていただきながら、季節の食材や利用者の希望などを取り入れています。摂取量や水分チェックも行っています。	○	現在、配食サービスの1500kcalのメニューを参考としています。今後も、栄養のバランスやカロリー、また、利用者の希望の事も考え提供していきたいと思います。
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染予防マニュアルを作成しており、インフルエンザ予防接種に関しては、毎年協力医より行っていただいています。また、うがいや手洗いを徹底し予防に努めています。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食材は毎日、必要分だけ購入しています。調理用具・布巾等は定期的に消毒し、冷蔵庫・冷凍庫内の食品管理に気をつけています。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関前には、花壇や家庭菜園があり、近隣の方も気軽に寄って頂けるような親しみやすい環境を心がけています。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者が皆で作った作品のほか、元画家だった利用者の作品や、昔の事を思い出していただけるように、昭和初期のポスターなどを掲示しています。また、家庭で使う物と同じ物を使用したり、テレビの音や照明、日差しの調節等は利用者の確認を取りながら居心地良い空間作りに配慮をしています。	○	飾り付けによって華やかに見えるのですが、それが、かえって施設側の押し付けになっていないか、見直しを行いながらサービスの提供を行っていききたいと思います。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホーム内の共有空間には、お座敷や長椅子などが設けてあり、食事の時以外は、利用者自身、自由に、気に入った場所で過ごして頂いています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に使い慣れた品々の持ち込みについてお話し、個々の状況に合わせて持ち込んでいただいています。仏壇、配偶者の写真、家具や装飾など自由に持ち込んでいただいています。	○	基本的に自由に持ち込んで頂いていますが、その人の認知力に応じて、火気や刃物等の持ち込みに関して制限をさせていただく場合があります。今後も相談しながら対応していきたいと思います。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	天気の良い日には、出来るだけ外気を取り入れてるように努めており、暑がりな方や寒がりな方など、利用者の状態に合わせて配慮しています。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	玄関に椅子を置いて自分で靴を履けるようにしたり、廊下や浴室・トイレ内に手すりを設置し、少しでも自立した生活を送れるよう支援しています。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	個々の出来ることを見極めて、見守りやできないところは援助しています。混乱や失敗が起きないような環境作りに努めています。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	ベランダは、日向ぼっこや夕涼み、また洗濯物を干したりといった空間になっています。屋外では、開いたスペースの草むしりや、家庭菜園での活動を利用者と一緒に楽しんでいただいています。		

V. サービスの成果に関する項目

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
98	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の
		<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいの
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいの
		<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない
99	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/>	①毎日ある
		<input type="radio"/>	②数日に1回程度ある
		<input type="radio"/>	③たまにある
		<input type="radio"/>	④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族と
		<input type="radio"/>	②家族の2/3くらいと
		<input type="radio"/>	③家族の1/3くらいと
		<input type="radio"/>	④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="checkbox"/>	①ほぼ毎日のように
		<input type="checkbox"/>	②数日に1回程度
		<input type="checkbox"/>	③たまに
		<input type="checkbox"/>	④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="checkbox"/>	①大いに増えている
		<input type="checkbox"/>	②少しずつ増えている
		<input type="checkbox"/>	③あまり増えていない
		<input type="checkbox"/>	④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	<input type="checkbox"/>	①ほぼ全ての職員が
		<input type="checkbox"/>	②職員の2/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	③職員の1/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="checkbox"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input type="checkbox"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="checkbox"/>	①ほぼ全ての家族等が
		<input type="checkbox"/>	②家族等の2/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	③家族等の1/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

- ・家庭菜園や花壇には、季節の野菜や花などを植えて季節感が味わえるようにしています。
- ・利用者と共に暮らす生活を考え、職員の出退勤時にも「ただいま」「行ってきます」と挨拶をするようにし、家族の一員として関わりあいが持てるような雰囲気に努めています。
- ・近隣との関係作りも見守り隊や地域交流サロンなどの取り組みから、徐々に馴染みの関係ができてきています。
- ・利用者と共に食事を作ったり後片付けをしてもらったりと、日常的な当たり前の生活の中で、利用者の活躍できる場所を増やすように努力しています。
- ・ワムネットにコラムを掲載しています。よかったらご覧になってください。